

近鉄久居駅に「ハチ公口」を

忠犬ハチ公の飼い主として知られる上野英三郎博士（一八七二—一九三五年）が亡くなってから、二十一日で九十年。上野博士の出身地である津市久居地域では、博士とハチ公の銅像が建つ近鉄久居駅の東出口を「ハチ公口」に改名できないかとする声が盛り上がり、兆しを見せている。（滝田健司）



久居駅の東出口前にある銅像は三年前、近代農業土木学の基礎を築いた郷土の偉人である上野博士を顕彰しようと、地元有志が建てた。博士とハチ公が並んだ像は、当時としては全国初。銅像の周辺は公園となっており、東京の渋谷駅のような待ち合わせに使われるベンチも並んでいる。

久居駅の東出口を「ハチ公口」に改名を提案するのは、三重大学農学部で農業土木学を研究する成岡市教授だ。成岡教授は「大館駅は出口が一つだけなので改名には向かないが、東西にある久居駅ならば可能だ。飼い主と犬が並んだ像があるのも他の駅とは違う」と力説する。

上野英三郎博士とハチの銅像が建つ近鉄久居駅の東出口前＝津市久居新町

近鉄の秘書広報部は「駅の出口の名前が変わった例はあまり聞いたことがないので、まだよく分からない」とする。だが、地元住民から前向きな声はある。地元建設業で久居彩祭運営委員の青木義則さん（四七）は「地元の子どもたちには博士とハチ公の銅像の認知度はまだ低いと思う。ハチ公口が面白いという声が増えれば、動きも起きるのでは」と期待を込める。

「東出口」改名 盛り上がりの兆し

上野博士の孫で久居地域に住む元県議の上野一人さん（七〇）は「ハチ公口は銅像を建てた時に雑談で持ち上がった。ハチ公をきっかけに地元が盛り上がればと思う」と見守る。

忠犬ハチ公像は渋谷駅以外にも、ハチ公の出生地である秋田県大館市のJR大館駅前にもある。成岡教授は「大館駅は出口が一つだけなので改名には向かないが、東西にある久居駅ならば可能だ。飼い主と犬が並んだ像があるのも他の駅とは違う」と力説する。